

stripe

CFO レポート

# 自動化とデータ統合がもたらす財務部門の未来像



## はじめに

経済情勢の変化や人工知能の台頭、さらには利益率重視への圧力が続く中で、5年後の財務部門はどのように業務を遂行しているのでしょうか。

この疑問に答えるべく、Stripe は Milltown Partners 社と共同で、大企業、中規模企業、スタートアップなど、世界中の CFO や財務部門の責任者 1,700 人以上を対象に調査を実施しました。

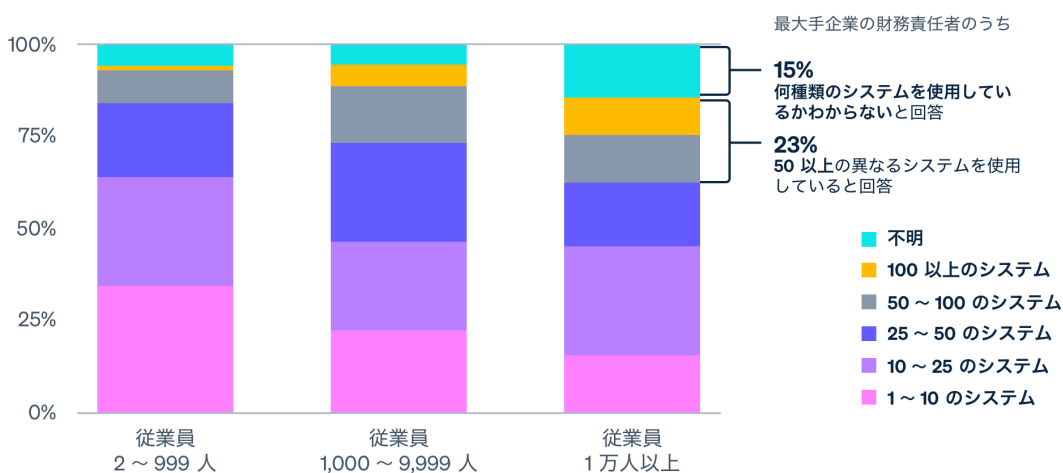
このレポートでは、今日の財務責任者が財務部門の未来に向けて準備している3つの取り組みに焦点を当てています。

## 財務部門はより適切かつスピーディーに事業判断を下すために、ソフトウェアプロバイダーを統合する

2010年代に SaaS プロバイダーが急増しました。これにより、企業はさまざまなポイントソリューションを使って、事業に欠かせない業務を自動化できるようになりました。大半の企業がビジネス運営に多数のシステムを導入していますが、調査に回答した CFO は、使用しているシステムがあまりにも多いことに頭を悩ませています。

たとえば、重要なビジネス指標にアクセスするために、多くのシステムを使用しなければなりません。調査回答者の 63% が自社の財務状況を統合的に把握するために、10 以上の異なるシステムを使用していると答えています。この問題は、大企業ほど深刻です。調査対象となった最大手企業の財務責任者のうち 23% が 50 種類以上のツールを使用しており、15% が使用しているツールの数を把握していません。ツールが多すぎて数えきれない状況を察することができます。

### 企業が財務状況を統合的に把握するために利用しているシステムの数



使用するポイントソリューションが多いほど、データの不一致への対応を強いられる頻度も増えます。重要なデータが数十もの異なるツールに分散されているため、財務チームはシステム間のデータ照合を手動で行い、その作業に何時間も費やしています。実際、調査回答者の半数近くが、毎月10時間以上をかけてデータ照合時に起きるエラーや不一致に対応しなければならないと回答しています。さらに、35%が、四半期決算の後に発生したエラーのために、少なくとも四半期に一度は会計帳簿の再確認や利益の修正を余儀なくされていると回答しています。こうした問題は、財務チームに余計な仕事をもたらし、意思決定のスピードを遅らせるだけでなく、企業の信頼を失墜させる要因にもなります。

### 財務チームは何時間もかけて手動でデータを照合している



**45%**  
データエラーの対応に毎月10時間以上を費やしている財務チームの割合



**35%**  
少なくとも四半期に一度は会計帳簿の再確認や利益の修正を余儀なくされている財務チームの割合

## データの一元管理による業務効率化

そうしたリスクを減らすために財務責任者が計画している取り組みの1つが、ソフトウェアプロバイダーの一部を統合することです。実際に、財務責任者の55%が、今後1～2年以内に使用しているソフトウェアプログラムを統合したいと考えています。そのうち半数近くが、統合の目的としてデータの一元化を挙げています。たとえば、統合を検討している財務責任者の48%は、データを一元化することでより正確なデータをより効率的に取得したいと考えています。これは、コスト削減(46%)、売上の最大化(44%)と並んで、リスト内で最も選ばれた選択肢です。この結果は、業務全体を効率化し、事業成長を促す上で、データの一元管理がいかに重要な役割を果たせるかを浮き彫りにしています。

### CFO インサイト



現代の財務部門の成功を握る鍵は、事業を理解し、関係を構築し、さらに疑問を投げかけたりサポートしたりすることで、成長と効率化を後押しできるようにすることです。そのためには、事業を深く、細部まで理解する必要があります。

今日の財務部門と10年後の財務部門を考えた場合、データの習熟度はまったく異なるものになるはずです」

– Step CFO、Horacio Diaz Adda 氏

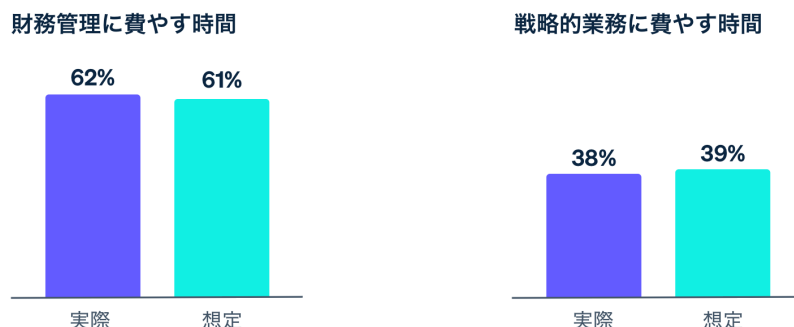
## ビジネスの未来に向けたヒント

- 財務ソフトウェアの統合を検討しましょう。統合によってデータとレポート作成が一元化され、人的ミスを最小限に抑え、決算処理をより短期間に終わらせることができます。たとえば、Stripe は、既存の EPR や会計ソフトウェアを置き換えることなく、**支払い**、**請求書発行**、**税務**、**請求管理**、**収益認識**ソフトウェアを1つのシステムにまとめるためのコンポーネント一式を提供しています。
- 自社のビジネスニーズに合わせてカスタマイズできるよう、多彩なソリューションを提供するモジュール式プラットフォームを選びましょう。Stripe を導入する SaaS 企業を例に挙げると、さまざまなビジネスモデルに対応できることで、セルフサービス型の事業では**従量課金**を使用し、(年間契約になることが多い)販売型の事業では**請求書**を活用することができます。新しい市場に進出する際には、さまざまな**決済手段**を試すことで、コストを削減し、**顧客獲得率を向上**させることができます。
- AI などのより高度な分析ツールを活用するための鍵は、基礎となるデータを確実に構造化し、一元管理することです。すべてのデータが1つのシステムに統合されていれば、データが何十種類もの異なるシステムに分散して構造化されていない場合に比べ、簡単に活用することができます。

## 財務部門の想定以上に、財務業務の自動化が進む

どのような業務にも非戦略的な要素は含まれますが、調査対象となった財務責任者が率いるチームの約半数が、75%以上のバックオフィス業務を手作業で行っています。結果として、利益に最も影響する戦略的なプロジェクトに費やす時間が大幅に減少しています。調査対象の CFO は、自社の財務チームが戦略的業務に費やす時間は40%に過ぎないと回答し、さらに意外なことに、その大半が戦略的業務とバックオフィス業務に費やす時間のバランスは適切だと考えています。

**財務責任者は、自社の財務部門がバックオフィス業務に費やす時間は適切であると回答**



しかし、財務業務を手動で行う場合、さまざまな非効率が発生することになります。現状のシステムを使って、事業に関するインサイトをまとめるのに具体的にどのくらいの時間がかかるのかを尋ねたところ、63%がリアルタイムでデータにアクセスできると考えている一方で、77%がインサイトを得るのに1時間以上かかると回答しています。また、4分の1が半営業日以上かかると答えています。

その一方で、財務責任者はテクノロジーの活用による成長の促進を強く望んでいます。2023年に最も期待する上位3つの新たな取り組みのうちの2つとして、回答者の40%近くが「財務業務を自動化するデジタルテクノロジー」、さらに40%が「新しいテクノロジーとイノベーション」を挙げています。

## 現状の再考

こうした回答が示唆するのは、財務責任者が現状の非効率さを事業の通常コストとして受け入れており、最新の財務スタックを導入することでいかに時間を削減できるかに気づいていないということです。今後数年で何が起きるかは言うまでもないことですが、今日のテクノロジーは、すでに多くのチームにとって効率化の推進力になっている可能性があります。新たなツールが登場し、自動化が進むことで、財務チームは戦略的業務に専念できるようになるでしょう。調査回答者は、データ分析、戦略計画、事業部門との連携体制の構築・強化、新しいビジネスモデルの立ち上げを優先事項として挙げており、それらの業務はいずれも、事業収益に大きな影響を与えます。

### 手動での事務処理から開放された場合の最優先事項

19%

データ分析

15%

戦略計画

15%

財務部門と事業  
部門の連携

14%

新しいビジネスモ  
デルの立ち上げ

11%

パフォーマンスの  
追跡

残りの26%の回答者は、予測、シナリオ計画、モデリング、その他、を優先事項に選択

### CFO インサイト

AON

(AIは)財務だけでなく、すべてのバックオフィス業務に大きなイノベーションをもたらすと考えられます。顧客とのやり取り(だけでなく)大量の規制関連書類を提出しなければならない法令順守においても、AIが活用されています。実際、自社のポリシーのすべてをクエリし、(AIに)規制関連書類を書いてもらうこともできます。

(すべてを)最初から正しく標準化できればエラーを減らすことができるので、実際に標準化して効率化を高めるだけでなく、品質を向上させられる機会が多いでしょう」

- Aon CFO、Stripe 取締役、Christa Davies 氏

## ビジネスの未来に向けたヒント

- 財務部門の業務を評価し、ボトルネックや手作業に頼っているプロセスを特定して、効果的に対処できるテクノロジーを探しましょう。
- 業務を素早く遂行する能力や、組織への影響力をもとに財務チームを評価しましょう。企業組織の中で、財務チームにどのような影響力を持たせたいですか。重要な戦略的パートナーとしての活躍を期待するのでしょうか。それとも単純にデータ処理に注力してほしいのでしょうか。「1年前と比べて unnecessary 業務は減っているか」「現在運用中のソフトウェアやプロセスによって、業務スピードが大幅に遅くなっていないか」といったことを問いかけてみてください。
- 自社のビジネスにとって、イノベーションを起こすことがどれほど簡単(または困難)かを把握しましょう。たとえば、新しい価格戦略をテストし、繰り返し改善し、立ち上げるまでにどの程度の時間が必要ですか。どの程度の時間で、現在の料金体系モデルを変更することができますか。

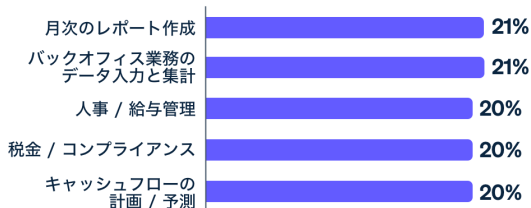
## テクノロジー活用と自動化において、人間の介入が今後 も大きな役割を果たす

人工知能と大規模言語モデル(LLM)が急速に進化する中、どのタスクをAIに完全に任せ、どのタスクで人間の介入や監督が必要かを企業は見極める必要があります。ソフトウェアシステムと従業員の間で役割をどう分担するかは業界によって異なりますが、テクノロジーを使ってどのように業務を補強できるかについては、あらゆる企業が考えることになるでしょう。特に財務部門は、手作業による事務処理に毎月何十間も費やしていることを考えると、自動化による成長促進が期待できます。

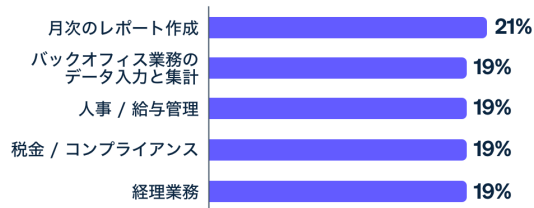
しかし、財務責任者は人間の介入と管理は自動化と同じくらい重要だと考えています。たとえば、調査対象のCFOは、月次のレポート作成、データ入力、経理業務の効率化に最も関心を持っていました。その一方で、どの財務業務を手動で行いたいかという質問に対しても、まったく同じプロセスを選択していました。

**CFO は一部の財務業務の自動化を強く望む一方で、その業務を手動でも行いたいと考えている**

企業が最も効率化したい財務業務



企業が手動で行いたい財務業務



## 自動化の際にもコントロールできることが重要

言い換えると、自動化が最も必要とされている業務と、財務部門が手作業で処理したい業務は同じです。この結果は、財務責任者が、手作業によるワークフローを自動化で改善したいと考えているものの、完全に人間の介入を排除することは検討していないことを示唆しています。財務ツールに何を求めているのかという質問に対して、CFO はコントロールの重要性を挙げています。フランスのある CFO は「当社の実際のニーズに可能な限り近づけるため、もっと柔軟にカスタマイズできること」を求めていると述べ、ドイツのある CFO は「より優れた制御機能、すなわち、優れた拡張性と標準化を実現できるもの」が必要であると回答しています。

### ビジネスの未来に向けたヒント

- 財務チームが手動で事務処理を行う最大の要因を特定し、自動化を試験的に導入しましょう。該当する業務の一部を自動化することから始めます。たとえば、期末時に発生主義会計を手動で処理することに最も多くの時間を費やしているとしたら、その業務をシンプルにできる ([Stripe の Revenue Recognition](#) のような) ツールの導入を検討します。
- 自社のビジネスニーズを確実に満たせるよう、人の手による入力と操作が可能なテクノロジーを探します。例として、[Stripe Sigma の SQL と OpenAI の連携](#) (ビデオの 48 分 30 秒からデモが始まります) で紹介しているように、財務チームは AI を使って Sigma 内で SQL クエリの開始点を生成でき、その後で、人間がクエリの変更、編集、改善を行うことが可能です。

## Stripe によるサポート

Stripe は金融インフラプラットフォームとして、財務責任者がバックオフィス業務の効率化、売上拡大、コストとリスクの最小化を実現できるようサポートしています。多数の異なるシステムを管理する場合とは異なり、Stripe が提供するモジュール式の決済・収益プラットフォームは財務業務をシンプルにし、財務チームの業務効率化を可能にします。

### Stripe 導入のメリット

- [レポートと発生主義会計](#)に関する業務の効率化を図ることで、手作業を減らし、無駄なコストを生む可能性のあるミスを防ぎます。Stripe のプラットフォームは使いやすく、財務チームが複数のシステムの使い方を学ぶ必要はありません。そのため、時間短縮と人材確保に役立ちます。
- Stripe の統合されたプラットフォームでは、支払いの消し込みや請求書の支払い回収など、これまで手動で行っていたワークフローを効率化でき、[時間の短縮](#)につながります。
- [リアルタイムのレポート](#)から得られるインサイトを活用することで、Stripe 上での取引に関連するあらゆる質問の答えを瞬時に得られます。レポートのスケジュールを設定して、日次、週次、月次のペースで自動生成することができます。

- 既存のERP、**データウェアハウス**、その他の財務レポートツールと簡単に連携でき、どのような顧客が何をどのように購入したかという情報を把握できるよう、インサイトをリアルタイムで提供します。
- 既存のシステムやスプレッドシートから脱却することで、バックオフィス業務を刷新します。財務部門の効率を上げ、コストを削減し、異なるシステムの利用によるデータの分散を防ぐことで、拡張性を向上させます。

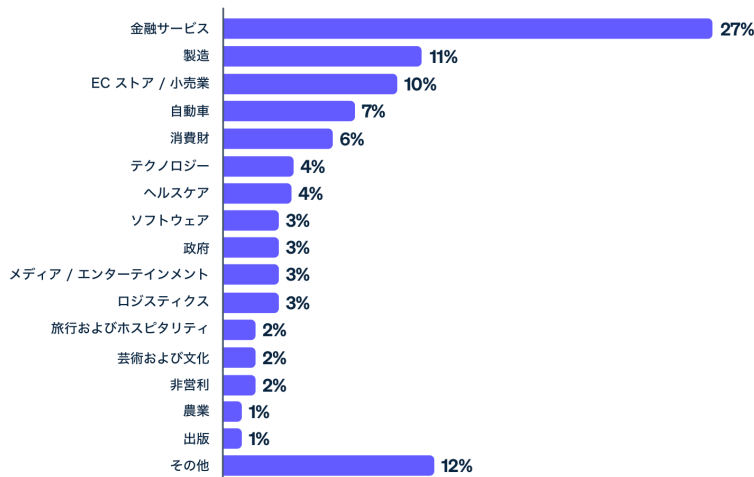


Stripe ではバックオフィス業務の効率化をお手伝いしています。詳しい内容については [営業チーム](#) へお問い合わせください。

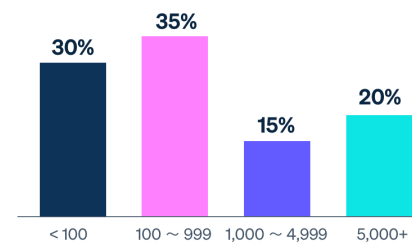
## 調査方法

Milltown Partners 社 (データプロバイダーの Focaldata 社と提携) と共同で、世界の 8 市場 (オーストラリア、フランス、ドイツ、日本、メキシコ、シンガポール、イギリス、アメリカ) で、少なくとも自社の売上の 10% がオンライン販売によるものであると考える企業のエグゼクティブまたは財務を担う意思決定者 (CFO、最高会計責任者、経営幹部、コーポレートファイナンスまたはビジネスファイナンス、財務担当の VS / SVP) 1,700 人以上を対象に調査を実施しました。

業界別



従業員数



注: 分かりやすくするために、すべての割合の端数を切り上げています